



2016.02.29 定住外国人政策研究会「イニシャチブ Nippon プロジェクト」

第2ステージに入った定住外国人政策研究会の活動は、國松座長の下、磯山、鈴木、毛受、戸田、麻植各氏他により小委員会を構成。

2月29日（月）、第1回小委員会を開催した。石坂代表理事も出席。



外国人の受け入れに関する官と民、中央と地方の声を結ぶため、今秋東京ラウンドを開催することを決定。これを目指し、外国人受け入れに関する地域意見交換会を各地で開催することを決定。

今後、外国人受け入れ問題に関心の高い地域の自治体との折衝、協議を進めることとした。

名称は「イニシャチブ Nippon プロジェクト」とする。

各地で行われているさまざまなシンポジウム、討論会の研究成果を参考に、各地の声と中央の意見を結ぶ役割を果たす東京ラウンドでつぎのプロセスを踏み出す活動とすることを確認した。

以下は、たとえばどのような声を集めていくかの例示として整理した。さらなる研究が必要との認識で一致。



地域意見交換会での討議事項（例示）

- 1 地域の定住外国人の数、出身国および特徴など
- 2 定住外国人を支援する行政サービスおよび民間団体（日本語教育を含む）の概況
- 3 「多文化共生」事業はどのような効果があるか？課題は何か？
- 4 定住外国人の抱える主な課題（教育、日本語学習、就労、医療、住居、日本人とのコミュニケーション・トラブルなど）のうち特に大きな問題は何か。
- 5 外国人全般に対する地域住民の意識は肯定的か否定的か？
- 6 地域で外国人を働き手に求める声はどの程度あるか。どのような分野・職域か。
- 7 「定住外国人の受け入れに関する提言」についての意見